

# I'm home! Tokamachi

わたしがわたしに、  
帰る場所。





# あなたは何タイプ？ U・I ターン移住診断チャート



type 06

Family type

のびのび  
子育て

子供を自然環境の中で育てたい。理想はあるけど、現実的な部分で不安がある。子育て世代のリアルな話を聞いてみよう。



type 05

Relationship type

関係人口

都市圏の仕事も暮らしも嫌いじゃない。まずは副業やイベントをきっかけに地域社会との関わりを作ろう。二拠点居住も◎。



type 04

Community building type

まちづくり

十日町市をもっと良くしたい。得意な分野が生かせる市民活動の団体も探してみよう。地域おこし協力隊もオススメ！



type 03

Slow Life type

スローライフ

都会より地方でのんびりした暮らしがしたい。支出を見直し、収入源を確保しよう。農を生活に取り入れてみるのも良いかも。



type 02

Changing type

環境の変化  
転職

今の状況を変えたい。地元に戻って働きたい人。仕事がないと言われてるけど、能力やスキルを活かして職場を探そう。



type 01

Start-up type

起業  
継業

仕事のやりがいと暮らしの両方を充実させたい。地域の余白はまだ多い。活躍するフィールドを自分でつくろう！

I'm home!  
Tokamachi

いつも近くにあったから、  
気づけなかったこと。  
離れたからこそ、見えたこと。

どんな時代の変化の中でも、  
あなたがあなたでいられる  
場所はどこですか。

わたしがわたしに、帰る場所。  
ただいま、十日町。

バックナンバー



前号  
2022年 8月号  
vol.05



過去の移住冊子はコチラ



十日町市役所HP  
<https://www.city.tokamachi.lg.jp/index.html>



十日町市U・Iターン情報誌

I'm home! Tokamachi

2022年 12月号 vol.6

CONTENTS

03 あなたは何タイプ？  
U・Iターン移住診断チャート

移住者インタビュー

04 [子どもたちに伝えたい歩んだ軌跡]  
庭野遥太・由貴さん

08 [わたしに本当に必要だったもの]  
後藤夕子さん

12 移住者の受け皿 —あなたを待つ、新しい暮らし—  
[助け合いながら、共に暮らす]  
田野倉集落・渡辺さん ご一家

16 十日町市の企業の新たな挑戦  
[このまちですと幸せに暮らしてほしい]  
株式会社イイキ 代表取締役社長 飯塚一成さん

18 移住に関する  
補助金・サポート制度のご紹介



## 移住者 インタビュー

十日町市への移住を決断し、生活をしていく中で  
人生がどのように変わっていったのか。  
子どもの頃には気づかなかった魅力、外からは見えなかった  
十日町市の姿。人と関わる中で深まっていく  
移住者のライフヒストリーを掘り下げます。

### 庭野遥太さん 由貴さん

type06 / 6人の子育て



子育てをしたときにいつも頭によぎっていたのはUターンの文字



カメラマンを遊びに誘う人見知りしないゆさちゃん

## 子どもたちに伝えたい歩んだ軌跡

### 親

元を離れて上京した学生時代。行きたいところに行けて、見たいものを見て、憧れていた都心での生活が日常になった。しかし、結婚、出産、子育てとライフステージが変わっていくと、そんな楽しかったはずの都心での生活に少し窮屈さを感じることも増えてくるのではないだろうか。そんなときに、ふと立ち止まって考えてみて欲しいのです。

5年後、10年後にあなたのそばにいる家族との生活が鮮明に想像できる場所はどこでしょうか。都心での生活と十日町の生活。両方を知っているから、自分にとって「本当に必要なこと」が見えてくるはず。そんな想いを胸にUターンしてきた家族取材しました。

### 憧れていた東京での生活

十日町市の中心市街地から程よく離れた閑静な住宅街。家族4人が暮らす新居は、今年の8月に建てたばかり。キッチンから子ども達のことを見守れるリビング。昨日、ちょうど2歳の誕生日を迎えたゆさちゃんをお祝いした飾りがまだ残っていました。庭野さん夫婦は夫の遥太さん、妻の由貴さん共に十日町市の出身。高校卒業と同時に上京して、二人で地元を離れました。

遥太さん「妻とは高校時代から交際をし

由貴さん「杉並区での生活は学生時代とはまた違って、ちよūdよく便利で暮らしやすかったです。子どもが生まれてからも杉並区独自の子育て支援があったり、相談できる施設があったり、大きな不満がある訳ではなかったんです」

何不自由のない東京での新婚生活。しかし、子育てをしていくにつれ、二人の間にこれまで感じたことのなかった「不安の種」が現れはじめたのです。

### 子育ての中で感じ始めた「窮屈さ」

由貴さん「子どもを連れてのお出かけは、一人で出かけるときとは比べものにならないくらい大変で。ベビーカーだと電車やバスの乗り換えの経路も調べないといけないし、エレベーター、授乳室、どこへ行くにも下調べが必要でした」

遥太さん「都内にはキッズスペースがたくさんあるんですよ。でも30分でいくらかどうか、とにかくお金がかかる。公園の遊具も混雑していて、安心して遊ばせられない。飲食店に行くにしても座敷があるかを調べないといけないのですが、それにしても店が多すぎる。学生時代、魅力的だったことが子どもが生まれてから窮屈さに変わるなんて想像していませんでした」



取材中でも伸び伸びと遊ぶ八紘くんとゆさちゃん

ていて、二人で東京に出ていました。私は西荻窪、妻は白金高輪でそれぞれ暮らし、都内での生活を楽しんでいました」

由貴さん「田舎から出ているので、最初はテレビで紹介されていたお店にすぐ行けたり、流行りとされているものをすぐに体験できたり、そういう小さなことも凄く楽しかったですね」

横浜や鎌倉、千葉や浅草。どこへでも電車で行けて、二人で遊びつくした関東での生活。毎週のようにどこかへ出かけて、カラオケやファーストフード店が徒歩圏内にあるという、そんな些細なことがとても楽しかったのだそうです。

由貴さん「もちろん、遊ぶばかりではなかったですよ！看護師の勉強をしてい

この場所で、これから先も子育てが出来るのだろうか。そんな不安が少しずつ大きくなってきた時に頭に浮かんだのが地元へのUターンでした。

遥太さん「十日町市も生活するのが大変ではありません。雪の処理が大変で、都内で暮らしていると、よく豪雪地で暮らしていたなと改めて思いました。でも、子育てをするようになって、確かに雪国の生活は大変だけど、雪遊びも出来るし、自然の中で育ってくれるのは子どもにとって良いなと思い始めていました」

取材前日に2歳の誕生日会を行ったそうです



たのですが、生活費も自分で稼いでいく必要もあって、学校が終わったら六本木で深夜1時までアルバイトして、翌日は学校で勉強。両立はとても大変でしたけど、そんな環境での生活も楽しかったんです」

遥太さん「私も学生時代は友達と飲み歩いてましたよ。お金はなかったのですが、良い店に行っていた訳ではないですが、よく行くお気に入りの焼き鳥屋ができたリ、新宿や高円寺も庭のような存在になったり、都会の生活に染まっていきました」

それぞれの学生時代を謳歌し、勉強と

両立しながらの生活。卒業後、遥太さんは介護福祉士として、由貴さんは看護師として、それぞれ学生時代に学んだことを活かして社会人として働き始めました。

遥太さん「もちろん、地元である十日町市のことは二人とも頭の片隅にはありました。でも、いつ戻るかというイメージは具体的になかったです」

お互い就職し、生活の基盤ができ始めた頃、住まいを杉並区のマンションの一室へと移して同棲をはじめ、2017年に二人は結婚します。



**由貴さん**「どこかへ行こうとすれば、東京は電車移動ですけど、十日町市なら車でどこへでも行けますからね。楽しかった東京ですが、親になってみると泣いている子どもをよく思わない人もいたり、歩きタバコだったり、『優しくないな』と思うことは多々ありましたね」

伸び伸びと育てたくても、都内の生活だと子どもに制限をかけてしまう。自分たちのストレスも増長してしまい、マイナスの感情を子どもに抱いてしまう前に環境を変えようと、二人は地元に戻ることを決意しました。

## 親の視点になって初めて知った地元のこと

2018年に庭野さんご一家は十日町市にUターンしました。親として地元で暮らしてみると、今まで知らなかった良さが分かってくるようになったそうです。

**由貴さん**「市内なら桂公園こどもランドやめごろなどはよく使います。車で少し行った隣の市の八色の森公園はお気に入りです。他にもキヨロ口やくるる。ほどよく人が少ないので、東京で悩んでいたことが、こっちではなくなりました」

**遥太さん**「松之山温泉のナステビュー湯の山や千手温泉にもよく行きます。特に息子はお気に入り。あと助かったのは移住者向けの補助金ですね。市内に移住するもらえる補助金、奨学金の返還補助金、家を建てるときに使える補助金とメニューも色々あって、子育てのために使える支援制度も充実していて、活用できて良かったなと思っています」

由貴さんが続けて「自分自身のライフスタイルが変わっていかないと、本当の良さは分からない」と話します。若い時、独身の時に、いくら十日町市がいいと言われても、ピンとは来ない。実際に都心での生活に窮屈さを感じたり、困った経

## 自分が辿ってきた道だから伝えられる

親になって知った十日町市での生活。ずっと頭の片隅にあった「いつか戻れたら」という考えが子育てを機に実現しました。最後にもう一つ、庭野さん夫婦が子育てをする場所として十日町市を選んだ大きな理由があると話してくれました。

**遥太さん**「東京で子どもが育っていくことを想像できなかったというのも、大きな理由ですね。それは自分自身が十日町市で育ったからなのですが、やはり自分たちが辿ってきた道を自分の子どもにも辿ってほしいと思うんです」

**由貴さん**「やっぱり独身だったら、十日町市には帰って来ないのではないかな。東京での生活って一人ならどこまでも楽しいですから。でも、子育てをしながら行き詰まりを感じている人が、もし都心にいるなら、戻ってくることも一度ゆっくり考えて良いと思います。学生時代に見てきた十日町市と親になってから見る十日町市は全然違うものだから」

自分の帰ることができるところがある。生まれ育った故郷がある。それは、とても幸運なことなのかもしれません。それに気づくタイミングは人それぞれ。急がなくても良い、今すぐじゃなくても良い。それでも地元とは違う環境で生活の基盤

をつくることに窮屈さや不安を覚えたなら、地元のことを一度思い出してみてはいかがでしょうか。

**遥太さん**「自分の青春時代と子どもの青春時代が重なるって、なんか良いじゃないですか。自分が歩んできた道であれば、教えられることや伝えられることもたくさんあります。きっと同じ考えの人も多いと思うんです」

自分の人生が、自分一人だけのものではなくなったときこそ、どんなライフスタイルを描きたいか、考え実現するチャンスになるかもしれません。



八紘くん、マイブームは温泉巡り



ゆさちゃん、マイブームはお買い物



家の横を流れる川の音が心地良い

していたり、どちらかがUターンだったりすると、時間はかかるかもしれませんが。でも今、戻ろうかなと考えている人には、十日町市が子育て世代に対する支援に力を入れていることを知ってもらえたらと思いますね」



実は心配りが上手なゆさちゃん。カエルは怖いけど、カタツムリを捕まえるのは平気なようです。



車通りの少ない家前の道路。伸び伸びとした子育てができそうです。

## PROFILE



にわの ゆき  
庭野由貴さん

1991年8月生まれ。十日町高校を卒業後、短期大学への進学と共に上京。遥太さんとは高校時代から交際を続けていた。学生時代は白金高輪に住み、六本木で深夜までアルバイトをしながら、看護師資格を取得するための勉強と両立。卒業後は看護師として6年間、病院勤務。夫の遥太さんとのUターン後も看護師としての仕事を続けている。

にわの ようた  
庭野遥太さん

1991年6月生まれ。十日町高校を卒業後、大学への進学と共に上京。大学で社会福祉を学び、世田谷区内の特別養護老人ホーム介護士として勤務。2017年に高校時代から交際をしていた妻の由貴さんと都内で結婚。翌年に第一子である八紘くんが生まれたことをきっかけにUターンを決意。2018年にUターンをして介護の仕事を続けている。





新潟市時代と東京時代を思い出しながら話す後藤さん



type02 / 環境の変化・転職

後藤 夕子さん

## 自分にとって本当に必要なものは分かっていた

「最初に働いたのはコーヒーション、そこからファミレス、中華料理店、ビアガーデンと多様な業態の飲食店で働きました。配置替えで、同じ飲食店とはいえ、たびたび職場が変わり、長く勤めていれば、店長もするようになって、とにかく忙しい日々でしたね」

繁忙期には、一日12時間以上働く日が何日も続いたり、食生活が乱れて体調を崩したりすることもありました。そんな生活も気づけば二十数年。忙しい日々に終止符を打ったのは新型コロナウイルスの感染拡大でした。後藤さんの勤める企業の飲食部門が縮小することとなり、突然の転職が決まったのです。

「私の憧れは身体に良い食材をこだわりを持って出せる、こじんまりとしていても自分が自由にやれる飲食業をすることでした。でも、飲食業を長くやっているからこそ、その難しさはよく分かっていたんです。だから、本当に自分にとって必要で大切なものであっても、その環境に飛び込むことができなかったんです」

自分が目指したいことは分かっている。分かっているからこそ、飛び込めない。そんな葛藤を抱えていた後藤さんは、突然の転職によって、自分の意志とは関係なく『東京』という新しい環境へと身を移すことになりました。

「東京の生活は楽しい面もありました。でも、生活が良くなったかというところ、どうでしょうね。このまま会社勤めを続けていく中で、将来の明確な目標がある訳でもない。新潟市にいたときと同じように働いても、支出は増える。収入を上げていくのも難しい。そういう状況になって初めて、ずっと心の中にあった『憧れ』と向き合うようになりました」

そんな時に思い浮かんだのが、20年来の友人が住む十日町市の存在。新しく宿泊施設の中でカフェを始めるという話

## わたしに本当に必要だったもの

**私** たちの街はゆっくりと変わり続けている。それは雑多な日常の中では、中々気がつけないもの。でも、季節の変わり目。例えば、稲の収穫が終わった水田が眼下に広がったときは冬の訪れを意識し始めますよね。移住者にとって、十日町市での生活が日常になったのはどんな時だったでしょう。

移住者が店長をしている新しいカフェが出来たらしい。との噂を聞いて訪ねてみると、その場所があるのは宿泊施設の中。十日町駅を西口から降り、信濃川の先に見える里山を正面に見据えながら歩けば、10分もかからず「みはらしCafé」に到着します。古民家の一画に設置されたバーカウンターでコーヒーを淹れている後藤夕子さんは、今年の5月に東京から一ターンしました。

## 忙しいときは、一日十二時間以上働く日々だった

後藤さんが飲食業界で働き始めたのは18歳のとき。ワーキングホリデーで訪れたオーストラリア・シドニーの日本食を提供するレストランが最初の職場になりました。まだ十代で限られた仕事の選択肢の中、学生時代に趣味だった料理やお菓子づくりに関係のある仕事を選んだのだそうです。帰国後は新潟市内の大手百貨店に入社。それから20年以上、飲食業



移住に悩んでいる人がいるなら、コーヒーを飲みに来て欲しい



宿泊施設内にある「みはらしCafé」は宿泊客以外も利用できる

界で働くことになりました。

「飲食業は楽しかったですよ。作ったものを美味しかったと喜んでもらった仕事が仕事の喜びでした。でも、もちろん葛藤もあったんです」

子どもの頃からアトピーや喘息で悩んでいた後藤さんは『食材』に対する意識が周りよりも強かったそうです。しかし企業としては、原価率や決まった仕入れ先などの制約もある。仕事としての飲食業と自分自身が目指したい食の在り方との葛藤を抱えながらも、後藤さんは目の前の仕事に打ち込んでいました。

を聞いて、心は揺れていました。しかし、人材不足の中、長年勤めた企業を辞めることは難しく、辞めたとしても住む場所は？仕事は？新しい環境を整えるための費用は？と障壁が立ち上がったのだそうです。

「心は新潟に戻りたいと決まっていた。上司とも話をして、結局、仕事を辞めることができたのは、移住を決めてから1年以上経ってからでしたね。漠然とした不安はありながらも、まずは一歩踏み出したことが自分にとっては大きかったと思います」

## spot\_1

### 十日町市移住コンシェルジュ



#### 【施設概要】

後藤さんも移住前に相談に行った「十日町市移住コンシェルジュ」は移住検討者に代わって、移住に必要な情報を調査したり、移住相談を行ってくださるワンストップ移住相談窓口です。移住前だけではなく、移住した後に悩んだときでも相談に乗ってもらえます。専門の移住支援員が窓口でお待ちしています。

## data

【拠点】asto事務所(十日町市袋町西91番地1)

【開所日時】月曜日から土曜日 午前10時から午後4時(年末年始、祝祭日を除く)

【電話】025-755-5444 【メール】tokamachi.jju@gmail.com





テラス席から見える水田

## 移住の後押しをしてくれる存在が身近にいたこと

新潟への移住は決まっていたいながらも、せっかくなら都市ではないところへ移住したい。そう考える後藤さんの背中を押

ことでも、移住者をサポートしてくれる環境や背中を押してくれる友人たちの力があれば、憧れは実現できるのではないかと。そう思っています」

まだまだ始まったばかりの後藤さんの定住への挑戦。まだ体験していない十日町市の冬に不安はあれども、「それは自分の生活のことだから、頑張つてやっていきたい」と前向きな様子です。そういった移住をした後の「喜び」だけではなく「不安なこと」も含めて、分かち合っていたいした後藤さんは話します。

「移住を考えている人、移住をしたばか

してくれたのは、十日町市に住む「相談相手」の存在だったといえます。

「家のこと、仕事のこと、身の回りのことを相談できる友人がいたのは移住を決めることができた理由の一つです。十日町市が開設している『移住コンシェルジュ』を紹介してくれたのも、その友人でした。知らなかった補助金の制度や車の免許を取得するための支援まで親身になって教えてもらえて、移住に対する不安も和らぎましたね」

現在は市街地のシェアハウスで暮らしているという後藤さん。十日町市の冬に備えて買い揃えなければならぬ防寒着やスノーダンプ、暖房機材などの購入に移住者向けの補助金を活用したり、知人から「コタツ」をもらったり、次々と重なる新たな出会いに心を踊らせながら、暮らしの基盤をつくっています。

「住み始めてからは出会いと新しい体験

りの人とは特に話をしたいですね。十日町市の冬、気分転換にでも良いので『みはらしCafé』に寄ってもらえたら嬉しいんです。私の移住体験談、私が出会った人達の話、食材など様々なモノゴトを分かち合いたい。自分がそうされたように、同じ立場の人を受け入れたいです」

一人で答えを探すのが難しければ、誰かを頼る。そうやって移住に必要なことを見つけていきましょう。ゆっくりと変わり続ける街も、それは誰かの手によって少しずつ変わっているのです。あなたの知らない十日町市はまだまだあるはず。一緒に見つけていきましょう。



喫茶店時代の経験を活かしたCafeづくり



シフォンケーキをはじめ後藤さんセレクトの軽食が購入できる



外の光が優しく入り込む店内



後藤さんの相談相手になっている大橋さん（右）



一人ではできないことも二人なら

### spot\_2

#### みはらしCafé



#### data

【所在地】新潟県十日町市稲荷町4丁目367番地1（十日町ふれあいの宿交流館内）

【電話】025-752-3289 【営業時間】10:00~15:00

【定休日】不定期営業 ※営業日はお問い合わせ下さい

#### 【施設概要】

体に優しい食べ物を提供することを心がけている「みはらしCafé」では、一面に広がる田園を眺めながら、生産者が心を込めて育てた素材の本来の味を楽しめるスポット。「食」は身体とつながっていることを知り、ここでのひとときが「食」を考えるきっかけになって欲しいという願いが込められています。

### PROFILE



#### ごとう ゆうこ 後藤夕子さん

新潟県加茂市出身。新潟市内の大手百貨店の飲食部門で店舗管理に従事。カフェ、中華料理店、ビアガーデンまで多様な業態の飲食業の経験を経て、東京へ転勤。都内で働くなかで新潟への移住を決意。交流のあった十日町市へ2022年5月に1ターン。

## 一人では出来ないことも、誰かと一緒になら

「これまでの仕事と違って、思ったものを作れることや地域の良い食材を使えることは本当に幸せです。お子さんも安心して食べられる美味しいものを出していきたいと思っていますし、そういった食に対する関心の輪が広がってくれたら良いなと思っています。私一人では難しい

の連続でした。同じ移住仲間を紹介してもらったり、テレビの取材を受けたりと慌ただしかったです。でも、最近になって、やっとワーキングホリデー気分から抜け出してきましたね。最初は住んでいても、どこか観光に来ている気分だったのですが、マルシェを開催したり、前向きに何かをしようとしている人たちとの関係ができたりするにつれて、このまちに住んでいる感覚が芽生えてきたように思います」

遠出をしたときに、「帰らなきゃ」と



# 移住者の 受け皿

あなたを待つ新しい暮らし

仕事、住まい、居場所。  
あなたが安心して十日町市での  
暮らしをスタートできるよう、  
十日町市では「移住者の受け皿」が  
着々と広がっています。  
新たな移住者を受け入れようと  
奮闘する人たちの思いを  
取材しました。



## 助け合いながら、共に暮らす

Case #01

田野倉集落  
と  
渡辺さんご一家

### 移

住者が増えている十日町市。ＵＩターインを考えている人たちが、安心して新しい環境に飛び込むには「受け皿」の存在が必要不可欠です。かつては自分自身も移住者だった方が、多くの人たちに助けられながら十日町市で暮らし、いく中で地域の一員となり、「次は自分たちが受け入れる番」と、新しい移住者を受け入れる取組を始めています。

松代・田野倉はおよそ30世帯が暮らす集落。2012年にこの集落に移住した渡辺さんご一家を通して、集落存続のカギとなる担い手を取材しました。

### 移住のきっかけは 子育ての始まり

海外出張や東京都内で深夜までの勤務が多い仕事をしてきた渡辺さん夫妻。地

方への移住を考えるようになったのは子育てが始まったタイミングでした。

正幸さん「歩き始めてしばらくした息子がコンクリートの上ばかり歩いていたら、ある日公園に連れて行ったら芝生の上を怖がって歩かなかったんです。待機児童も多く、保育園にも入れなくて、ようやく見つけたのは池袋の雑居ビルの中にある認可外の保育園でした」

保育施設の数が足りないとはいっても、同じビルの中には遅くまで子どもを預けるのは不安に感じるテナントもあり、東京での暮らしに不安が募っていました。

奈々子さん「朝、子どもを保育園に連れて行くために電車に乗るにしても、都内だと満員電車を何本も見送ってやっと乗れます。ずっと東京では子育て出来ない

とっていました」

そういつた体験が重なり、かねてから大地の芸術祭で訪れていた十日町市が移住の候補地に浮かび、まずは住んでみようとなれば勢いも手伝って田之倉集落へ移住したのだそうです。

二人とも「いつか田舎の方で暮らしたいね」と話をしており、見知らぬ環境で暮らすことにも慣れていったことから、大きな抵抗感はありませんでした。

正幸さん「自分は海外で支援活動に携わっていたので、その経験が里山の集落で活かせるのではないかと思っていました。必要なことがあれば支援できることもあるのではないかと。でも、全く逆で、移住してからには助けられてばかりの生活でした」

### 生きていけるように世話を してくれた地域の人たち

初めて経験した十日町市の冬。荷物を取りに関東の実家に帰っている間に大雪に見まわれたとき、雪の中なんとか集落に帰ってくると家の前が綺麗に除雪されていたこともあったのだそうです。

正幸さん「信じられないですよ。農業に必要な軽トラックを『買い替える予定だ



から、あげるよ」っていただいたり、「車庫がないだろうから、取り壊す予定の車庫を移築してあげる」って、家に車庫を作ってくれたりしたんです」

奈々子さん「畑が下手で野菜もお芋も何もできなかったときも、『うちのサツマイモ、一列持っていてもいいよ』と声をかけていただいたり、春菊や葉物、天然の舞茸をいただいたりすることもあります。ここに住んで随分たちますが、今も変わりません」

正幸さん「どこから来たのかも分からない移住者を遠巻きに見守ってくれて、押しつけがましくなく『この村で生きていけるように』見ず知らずの私たちを世話してくれる。引越した当初から自分が一番何もできなかったけど、いつか恩返ししたいと心に決めていました」

data

### 田野倉集落(松代地区)



約30世帯が暮らす十日町市松代地区にある集落。都内の大学との連携や大地の芸術祭の作品設置、アートプロジェクトに関連した交流イベントなどに積極的な集落。移住者の受け入れ体制の整備を進めている。

【所在地】新潟県十日町市田野倉1389

写真上) 集落の住人も新しい人の流れに期待をしている  
写真中) 今年から着任した地域おこし協力隊の住まい  
写真下) 地域おこし協力隊が活動の時に使用する村への伝言板が集落で話題のタネになっている





写真左) この場所を拠点にワークショップや滞在体験プログラムを企画している  
写真右上) 楽暮D・I・Yの家 ijuは村の人たちの寄り合い所にもなっている  
写真右下) 名前の通り、DIYをするための道具が揃う

新しいことにも積極的に関わり、受け入れて、外の人に伝えようとする。そんな愛らしさが村の魅力なのだと話します。

正幸さん「ここは豪雪地域ですから、家は空き家になると潰れてしまう恐れがあります。でも、いざ移住者を受け入れようと思ったら住む場所が必要ですよ。それで空いている家を少しずつですが、地域で協力して、活用できるようにしたいと計画しています」

農業体験や農家民宿、ワーケーションなどの短期滞在ができるような受け皿の整備を行うことで村の課題を共有し、一緒に田野倉集落に関わる機会を増やしていきたい。そんな想いと共にいま、村全体が『新たな人の流れ』に期待を寄せています。

田野倉集落での移住促進に向けて、準備していることがあるのだそうです。

### これからの田野倉集落

正幸さん「移住者の新しい村をつくるのが目的ではありません。この村で受け継がれてきた村の魅力や文化を、今の村の人たちと新しく来る人たちが一緒に交流し、分かち合うことで、また次に受け継げるようにしたい。見知らぬ土地へ移住するのは不安かもしれませんが、その不安を少しでも取り除こうと声をかけてくれたり、関わりようとしてくれるのが、この村の気質なんです。その魅力が少しでも伝えることができれば嬉しいですね」

#### data

#### 楽暮D・I・Yの家 iju



「～仕事に住む場所を決める時代は終わり!～コロナ禍の中、テレワークが特別ではなくなり、シェアオフィスなども注目され仕事に住む場所を決める時代は終わりつつあります。『楽暮 D.I.Y.の家 iju』は、集落住民とデザイナーの支援により、D.I.Y.をキーワードにそんな移住者のために円滑な移住を支援するためのクラブです」(作家コメント)

【所在地】新潟県十日町市田野倉字下村1380番地1

【制作】名古屋工業大学 石松丈佳研究室 【営業時間】現在は公開終了

#### PROFILE



#### 渡辺正幸さん

神奈川県出身。1975年生まれ。大学卒業後、東京都内で教育関係や国際協力関係の仕事に従事。余暇で訪れた十日町市の山間地域に惹かれ2012年に田野倉集落に移住。国の青年就農支援事業を使い、水稻技術を学ぶ。2022年、認定農業者。学生の受け入れや交流事業等も行う。

#### 奈々子さん

群馬県出身。1975年生まれ。大学卒業後は企業やNPO等に勤務。正幸さんと結婚後、二児を出産し、田野倉集落に移住。現在お米づくりの傍ら、地域の民生委員や体操教室の事務局などを担う。趣味はお菓子づくり。



集落の中で、一緒に時間を過ごしてほしいと話す奈々子さん

### 少しずつ見えてきた自分たちの役割

そうして、渡辺さんが移住して10年。少しずつ農業が出来るようになってきたり、村のイベントを任せてもらえるようになったりして、ようやく田之倉集落の役に立てるようになってきたかもしれない。これから恩返しをしていこう。そう思う中で、厳しい現実が目の前にありました。

奈々子さん「長く暮らす中で親しくしてくれた方々がいなくなってしまうとしたら、やっぱり、それは寂しいですね」

正幸さん「前はそんな弱気なことを言う人じゃなかったのに、『もう歳だから田んぼを代わりにやってくれないか』と言われる。集落が維持できなくなるまで、もう時間がないかと思うことも寂しいことなんですけど、この村の人たちの優しさ

や文化を継承するには仲間が必要です」

人の手で受け継がれてきた集落の文化、生きる知恵、四季折々の暮らし。薪を割って、それを燃やし、山で獲った肉を食べる。誰かと一緒に営みをつくっていく感覚は、里山の集落だからこそ得られる。

正幸さん「この村では一人の存在感がとても大きい。自分の仕事とか関わりにどんな意義があるのか見えやすい。たった一度しかない人生を使う意義をどんな小さなことからでも感じる事ができる。そういう意味で頑張れるチャンスや生き甲斐があります」

奈々子さん「農業だけではなく、民生委員や体操教室のお手伝い、いろいろな事務仕事。なんでも、できる限りで自分の役割を持てるようになると、自分の役割を持てるようになる。必要とされることがたくさんあります」

### 移住者の受け皿をつくりたい

渡辺さん夫婦のそういった思いも共有され、田野倉集落が一丸となって移住者の受け入れに向けて本格的に動き始めました。移住者や農業後継者を誘致するための活動会をつくって、空き家の準備をし、田野倉集落では初めてとなる地域おこし協力隊の受け入れを開始したのです。



集落に恩返しを話している正幸さん

正幸さん「自分が移住してきたときのうちに、みんなが生活を気にしている。お互いが不器用だし、コミュニケーションが上手くないかない時もあるんですけど、移住者が過度な期待に押し潰されないように、サポートしてあげたいと思っています」

もう一つは、集落と作家の石松丈佳さんとの長年の関係がかたちとなり、集落内の古民家が今年「大地の芸術祭」の作品になったこと、田野倉集落を流れる風や光と訪れる人を繋ぐ作品となるようなアートプロジェクトとして「楽暮 D.I.Y.の家 iju」が生まれました。

奈々子さん「多くの人が訪ねてきて、活気がありました。たくさんのお母さん方が店番をしてくれました。印象的だったのは芸術祭の作品の説明を何度も聞くうちに覚えた村のお母さんが、海外のお客

## 村と移住者の間に立てる存在になりたい



写真左) 出荷しない野菜は自家消費用に残しておく  
写真中) 今年創刊した「さんくろ新聞」編集長である地域おこし協力隊が取材して地域の情報発信のために発行している。  
写真右) 田野倉集落の移住促進活動会「さんくろ会」。会議のあとは皆で労をねぎらい、笑い合う。



このまちでずっと幸せに暮らして欲しい

## NEW CHALLENGES 十日町市の企業の 新たな挑戦

時代にに合わせて変化していくことが  
求められている現代。  
未来を見据えた十日町市の企業が取り組む  
新たな挑戦を取材しました。

COMPANY 株式会社イイキ

株式会社イイキ 代表取締役社長

いづか かずなり  
飯塚一成さん

十日町高校卒業後、日本大学工学部への進学で福島県へ。卒業後は東京都のプリンター設計の企業で働く。2004年、35歳の時に自動車のプリント基板製造の部分工程である「回路形成」「レジスト形成」「シルク印刷」「カーボン印刷」を専業とする株式会社イイキに入社。品質管理部門を経て、課長職、部長職において経営企画に従事し、2015年に先代の父より事業を承継。代表取締役に就任。

やしていく取組を積極的に行っています。

「私も50代。働き方やプリント基板の作り方も定着して、それを解きほぐすのは難しくなっています。今のままやっていると、長く続けることが、長く続けるために、何か新しい考え方・働き方を取り入れていかなければならないという思いがあるんです」

若手の意見を経営に反映させていくため、飯塚さんは社内制度を整え、新たな役職として30代・40代の主任社員を数名抜擢しました。

「現場に裁量を多く持つてもらうことで、何かトラブルが起きたときも『自分ごと』として解決に当たってくれるようになります。従来のトップダウン型の経営ではなく、自律型へと変えていく。難



女性が働きやすいように作業場所をリフォームした

しいことではありますが、企業を長く続けていくために必要なことだと思っています」

働きやすさの改善だけではなく、仕事を通じた喜びを感じてもらえるようなビジョンづくり、人材育成、個々の特性に合わせた社内制度などの変革を進めていくのには、飯塚さんの十日町市への思いがありました。

### この町に長く 住み続けられるように

「十日町市にいたる以上、『働く』よりも『暮らす』ウエイトが大きい人が多いと思います。転勤もなければ出張も少ない。この地域に根を張って、安定して働くことができる会社です」

十日町市に長く住み続けてくれる人を守るためには、どんなに環境が変わっていったとしても、10年・20年先にも残り続ける企業をつくり、守っていかねばなりません。ただ、その中でも、仕事に対してやる気のある社員には役職を与え、仕事での喜びや誇りも持つてもらおう。「仕事」に対する個々人の取り組み方を汲んだ経営体制を目指しています。

「一方で、外で学んだことや自分のやってきたことを社内に浸透させていこうと



内の製造品出荷額の18.6%を占める自動車産業。日本の基幹産業として経済を支える重要な役割を担っている業界です。その中でもヒューマンインターフェースと呼ばれる自動車を利用する人の手に直接触れる機器のプリント基板製造を手がけている株式会社イイキ。「ものに厳しく、人に優しく」という経営理念を体现し、業界で大きな信頼を得ている企業です。その信頼の理由と新たな挑戦を伺いました。

### 日本の自動車産業を支える仕事

株式会社イイキの代表取締役社長、飯塚一成さん。35歳でUターンをするまでは、企画設計の仕事をしていましたが、帰郷してからの仕事は「回路の製造」をする仕事。仕事内容に大きな変化がありました。現場が中心の製造業で「ものづくり」を行う中で、自分が前職で感じていた「仕事への喜びや誇り」を社員にも感じて欲しいのだと話します。

「私たちの仕事の7割は大手自動車メーカーから受注しているプリント基板の製造です。同じような仕事を請け負うほとんどの工場が大手自動車メーカーの子会社である中、弊社は長年、パートナー企業として製造業務を行ってきました。プリント基板の命ともいえる回路形成を

してくれるような人材も求めています。これは弊社に限ったことではないと思いますが、求人を出していなくても、自分の能力や経験とマッチしそうな企業があれば、門を叩いても良いと思います。潜在的に、そういった新しい風を吹き入れてくれる人材を待っているんです」

生産性や収益性だけを求めるのではなく、社内の仕組みづくりや社員の声を聞くこと、適材適所な人材配置を行うことで、社内外からの信頼を高めています。また、子育て世代の声を聞き、新潟県ハッピーパートナー制度※1の認定を取得したり、女性が働くモチベーションが高まるように作業場をリフォームしたりと、様々な工夫を凝らして職場づくりを行っています。

「十日町市で暮らすため、生活のために、うちの会社があっても良い。大手の自動車メーカーからの仕事で事業の安定感はずばいです。でも、同じくらい自分が経験したことを活かしたいというやる気のある人材の受け皿もあります。是非、一緒に働きましょう」

事業の拡大を目指し続けることだけが会社ではありません。コソコソと信頼と技術を積み重ね、長く一緒に働ける組織づくりを行う十日町市の企業の姿がありました。



不良品を出さないように仕事を正確に淡々とこなしていく

### 若手を中心とした 管理職の育成へ挑戦

業界において「イイキは不良品率が圧倒的に低い」と評価を得ていることを社員にも誇りに持って欲しいといっています。一朝一夕には成し得ない業界での信頼をつくっているのは、誠実で真面目に、嘘や誤魔化しをしない社員の人柄や企業風土なのだそうです。

社外の企業である私たちに任せていただけること。これは先代から続く技術と信頼を、社員一同で守り続けることができているからこそなのです」

企業愛溢れる飯塚さんが代表取締役社長になって8年目。「世代交代」「新陳代謝」をキーワードに若手社員の裁量を増

#### 企業 DATA



#### ▶ 株式会社イイキ

住所：〒948-0102 新潟県十日町市山谷1253-2

株式会社イイキは、主に自動車に使われるプリント基板製造の部分工程である「回路形成」「レジスト形成」「シルク印刷」「カーボン印刷」を専業とする会社です。新卒採用・中途採用を積極採用中。

#### 〈募集職種：製造・検査〉

製造…………… 製造設備を操作し、プリント基板を製造する仕事です。  
検査…………… 拡大鏡を使用した製品検査です。  
就業時間…………… 8:15-17:30(休憩時間90分) ※時間外あり



家探しをサポート!お試し移住用のシェアハウスもあります。

### 十日町市空き家バンク



市内にある売却・賃貸できる  
空き家情報を公開しています。

空き家を使いたい人と空き家を貸したい人をつなげて、  
移住・定住の促進及び地域の活性化を図るため、「空き家バンク」  
制度を設けています。市内の売却・賃貸できる空き家情報を、十日  
町市に移住を考えている方へ市ホームページで提供しています。

### シェアハウス



単身移住者向けのシェアハウスが2軒、空室あり。  
移住の第1ステップとしてご利用ください。

■新水シェアハウスは、市街地から車で約20分、上越新幹線浦佐駅  
からは15分の“ちょうどいい”田舎暮らし。広い土間の共用スペース  
は様々な交流イベントに使われています。月額家賃は28,000円から。  
■竹所シェアハウスは、古民家再生のスペシャリストであるカール・ベ  
ンクス氏によるおしゃれなデザイン。美しい景観の中で、農のある暮  
らしが送れます。月額家賃は23,000円から。

※入居状況は変わることがあります。  
詳細は十日町市ホームページをご覧ください。

### LINEで市政情報をお届け!

「十日町市公式LINEアカウント」  
では、移住に役立つ情報を配信中。  
移住を考えている方は  
「友だち登録」をお願いします。

「受信設定」から、  
『移住・定住』や『イベント・観光』など  
自分の欲しい情報を  
選択することができます!



【友だち登録方法】



- 1 QR読み取り
- 2 公式アカウントから「十日町市」で検索
- 3 「友だち追加」より「ID検索」で「@tokamachicity」で検索

十日町市公式Twitterでは、  
十日町市の日常風景、  
市内で起きている  
何気ないできごとを  
ツイートしています。  
ぜひフォロー・いいね  
してください!



【フォロー方法】



- 1 QR読み取り
- 2 アプリ内のキーワード検索で「十日町市」または「@tokamachicity」で検索

### 奨学金の一部を市が補助します!



#### UIターン促進奨学金等 返還支援事業補助金

大学等を卒業後、十日町市に移住・就労しながら  
奨学金を返還する若者に5年間で最大100万円

※詳細はお問い合わせください  
教育総務課 庶務係  
新潟県十日町市水口沢12番地(川西庁舎3階)  
☎ 025-757-3118

### 十日町市での子育てを応援します!



#### 第3子からの 保育料無償化

18歳以下のお子さんが3人以上  
いるご家庭は、3人目以降のお子  
さんの保育料無料

子育て支援課 保育関係  
☎ 025-757-9169

あなたの移住を十日町市がサポートします!

## 移住に関する補助金・サポート制度のご紹介

### 市外からの移住で最大100万円!

※下記の2つの補助金のうち、一方のみ利用可能です。



#### 1. ふるさと回帰支援事業補助金

市外からの移住で「単身」最大40万円、「世帯」最大70万円。  
さらに、18歳以下の子どもがいる場合は1人につき10万円を加算

<詳細条件>

- ①令和2年4月1日～令和5年2月28日の間に移住
- ②申請期間は転入後1年以内
- ③転入時点で60歳以下
- ④就業している
- ⑤申請後5年以上、十日町市に定住すること

#### 2. 東京23区からの移住支援金 ※現在受付休止中

東京23区に5年以上在住、または東京圏(埼玉、神奈川、千葉)に在住しながら東京  
23区に5年以上通勤及び通学していた方が移住すると「単身」最大60万円、「世帯」  
最大100万円。さらに18歳以下の子どもがいる場合は1人につき30万円を加算

<詳細条件>

- ①令和4年3月1日以降に移住
- ②申請期間は転入後3か月～1年以内(今年度の受付は令和5年2月28日まで)
- ③以下のいずれかに該当  
A.新潟県の移住就業促進関連事業を利用して就業または起業 B.テレワーカー  
C.60歳以下で、十日町市が定める関係人口に該当  
④申請後5年以上、十日町市に在住すること

十日町市で新生活を始めよう!  
上記の1or2を利用した人は  
以下の補助金も対象になります。

### 3~5の補助金の組み合わせで最大190万円!

#### 3. テレワーク支援



○移住後もテレワークで市外企業の仕事を続ける方、  
フリーランスでテレワークをする方が、新たにパソ  
コンや事務用品を購入したりネット回線接続工事をし  
たりする費用を最大20万円

#### 4. 新築・中古取得、実家リフォーム支援



○住宅新築に最大60万円  
○新築用の土地購入で最大100万円  
○空き家など中古物件購入で最大20万円  
○移住後の生活のために実家をリフォームで最大10万円

#### 5. 免許取得支援



○運転免許(普通自動車のみ)の取得費用を  
最大10万円

### 新生活を始める新婚世帯に 最大60万円!



#### 結婚新生活支援事業補助金

結婚後の新生活のため、令和4年1月～令和5年3月の間に支払った引  
越しや住宅費用に対して最大30万円。夫婦共に婚姻時点で29歳以下の  
場合は最大60万円。

<詳細条件>

- ①令和4年1月～令和5年3月の間に婚姻した夫婦
- ②申請期間は令和5年3月31日まで
- ③夫婦共に婚姻時点で39歳以下
- ④令和3年分の夫婦の合計所得が400万円未満
- ⑤申請後5年以上、十日町市に定住すること



## 移住に関するご相談は移住コンシェルジュまで！

### 十日町市への移住を 検討しているあなたへ…

#### 主な対象者

- ☐ 地方への移住を検討している方
- ☐ 十日町市へのUターンを検討している方
- ☐ 十日町市に移住をした方でお悩みがある方
- ☐ 移住者の受け入れを行いたい方（企業・団体含む）
- ☐ ご家族、ご友人に移住検討者がいる方

#### 移住相談の方法

- ☐ メールで相談
- ☐ 電話で相談
- ☐ オンラインで相談
- ☐ SNSで相談
- ☐ 訪問して相談

詳しい情報はここからチェック！



[ Instagram ]  
@tokamachi.iju



[ ホームページ ]  
<https://ijuiu.jp/tokamachi/>

#### 移住相談までの手順

1. お電話または  
メールで問い合わせ
2. コンシェルジュが  
お客様の悩みをヒアリング
3. お客様に代わって、  
コンシェルジュがお客様に  
必要な情報を調査します。
4. オンライン相談で  
調査結果をご報告の上、  
細かい相談に対応します。



※お急ぎの方は、オンライン相談申し込みフォームにご記入いただければ、近い日程でご希望日を調整してオンライン相談が可能です。ご相談の内容によって全てお答えができません場合がございますのでご了承ください。 ※その他、お電話口でも可能な限りご相談をお受けしますので、お気軽にご連絡ください。

#### 移住サポーター&パートナー企業登録受付中！

十日町市移住コンシェルジュでは「全市民移住コンシェルジュ化!」を掲げて活動しております。  
移住者に対して有益な情報（仕事・空き家・イベント等）を随時、収集しておりますので、どうぞご連絡ください。

移住サポーター  
パートナー  
登録特典！

- ☐ 移住者、移住検討者のご紹介、マッチング
- ☐ SNSでの情報発信や移住検討者へ資料を送付
- ☐ 移住支援者、企業としてサイトに掲載！

登録申し込みは  
フォームまたは  
メールから



[ お問い合わせメールアドレス ]  
tokamachi.iju@gmail.com

#### アンケートのお願い

QRコードを読みとっていただきアンケートフォームより冊子の感想、取り上げて欲しいことや情報をお寄せください。みなさまからのご意見・ご感想をお待ちしております。



#### 制作チーム

企画・文 大塚真 写真 ほんまさゆり  
デザイン 芳川大樹 イラスト ハギワラスミレ  
制作 株式会社第一プログレス（雑誌「TURNS」）  
とことこ：十日町市の移住者夫婦による編集プロダクション